

金沢市集約都市形成計画 骨子（案）のポイント

● 何が問題なの？

人口減少によりまちの活力が低下し、生活が不便に

～ 今、真剣に考え、将来起こり得る問題を未然に防ぐ ～

- 全国の都市と同様に、本市でも少子・高齢化とそれに伴う人口減少により、まちの活力や賑わいの低下が懸念されています。
- このまま進むと、空き家・空き地の増加によるまちの空洞化、公共交通の廃止（クルマが無いと生活できないまち）、商店や病院などの生活関連施設の撤退、地域コミュニティの希薄化など、私たちの生活に大きな影響を与えかねません。

● まちをどうすれば良いの？

拡がり続けてきたまちを少しずつダイエットする

～ 住む場所や各種施設を適切な場所へ誘導 ～

- 住むところや働くところ、商店や病院などの生活関連施設を「まちなか」や「公共交通が便利な場所」へ計画的に配置することで、子どもからお年寄りまでの市民が、クルマでの移動に頼ることなく、安全・便利・快適に暮らし続けられるまちを目指す必要があります。
- そのため、「金沢市集約都市形成計画」をつくり、住む場所や各種施設を適切な場所へ誘導することで、拡がり続けてきたまちを少しずつダイエットし、持続可能な暮らし、元気な地域コミュニティ、便利な公共交通、そして賑わいある魅力的なまちの実現を図っていくことが大切です。

● 将来的にはどうなるの？

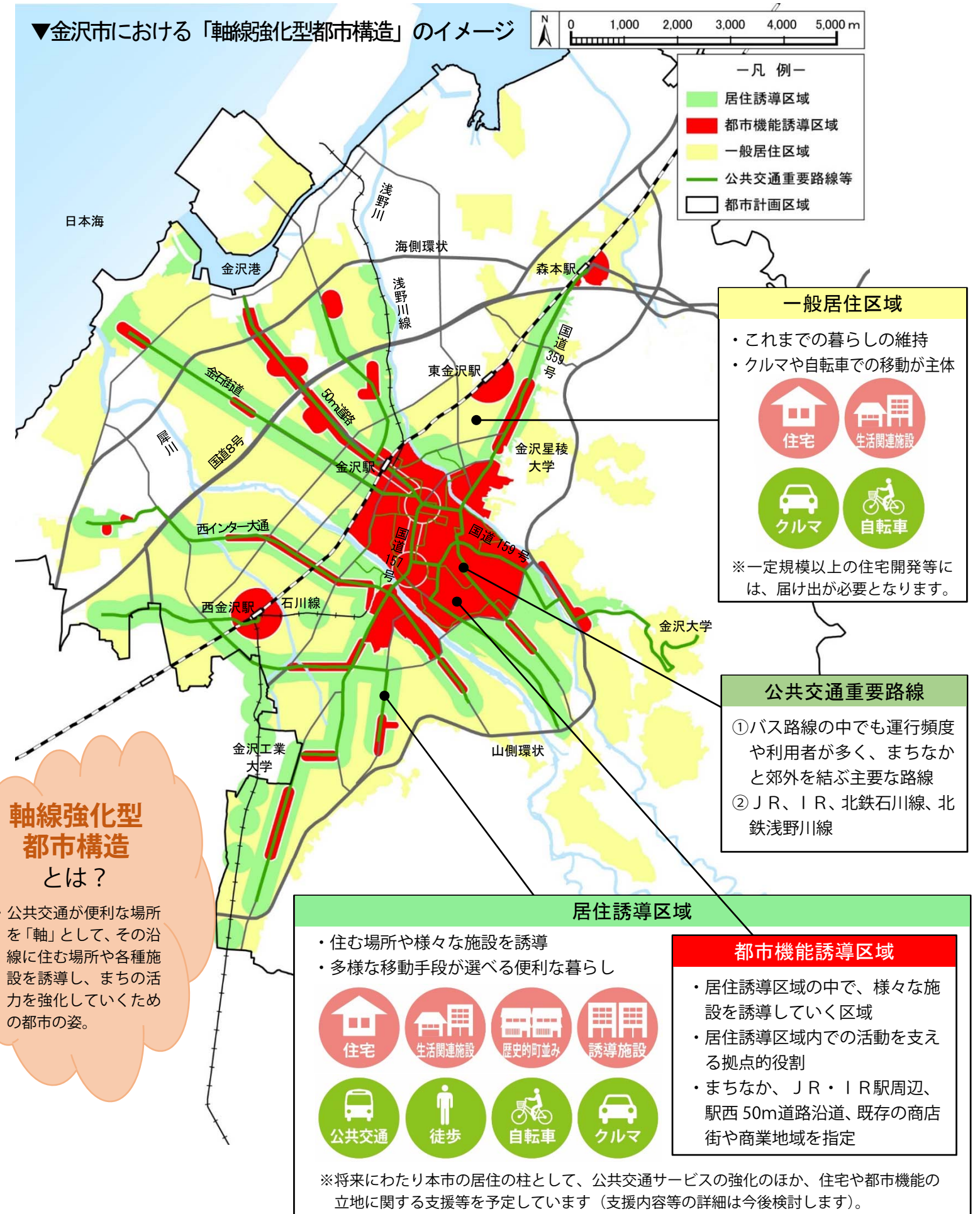
持続的な成長を支える「軸線強化型都市構造」への転換

～ まちなかを核とした魅力ある集約都市の形成 ～

- 「まちなか」や「公共交通が便利な場所（公共交通重要路線沿線）」、「歴史的な町並みが守り活かされているところ」を『居住誘導区域』とし、今後新たに住む人や市内外から移り住む人を誘導※していきます。
- 居住誘導区域の中でも、商店やオフィス、病院などの様々な都市機能がすでに集まっており、これからもその度合いを高めていくべきところを『都市機能誘導区域』とし、市民の便利な暮らしを支える拠点となるよう、各種施設を誘導※していきます。
- その他の市街地を『一般居住区域』とし、クルマや自転車での移動を主体に、既存のインフラを活用することにより、これまで通りの暮らしを維持していきます。

※「誘導」とは、長期的に、緩やかに、住む場所や各種施設の立地を推奨していくものです。（強制的に集めるものではありません）

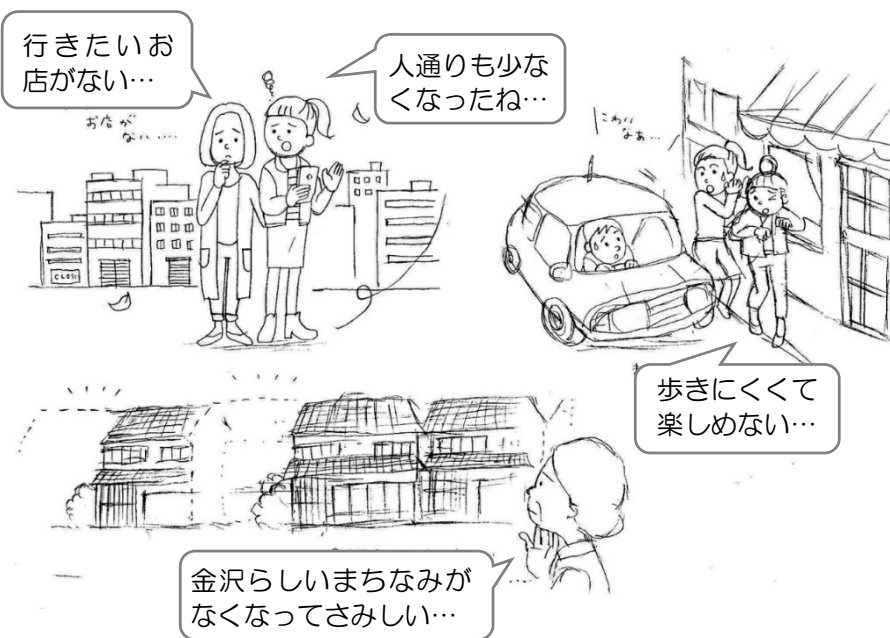
▼金沢市における「軸線強化型都市構造」のイメージ



【 都市機能誘導区域、居住誘導区域、一般居住区域のイメージ 】

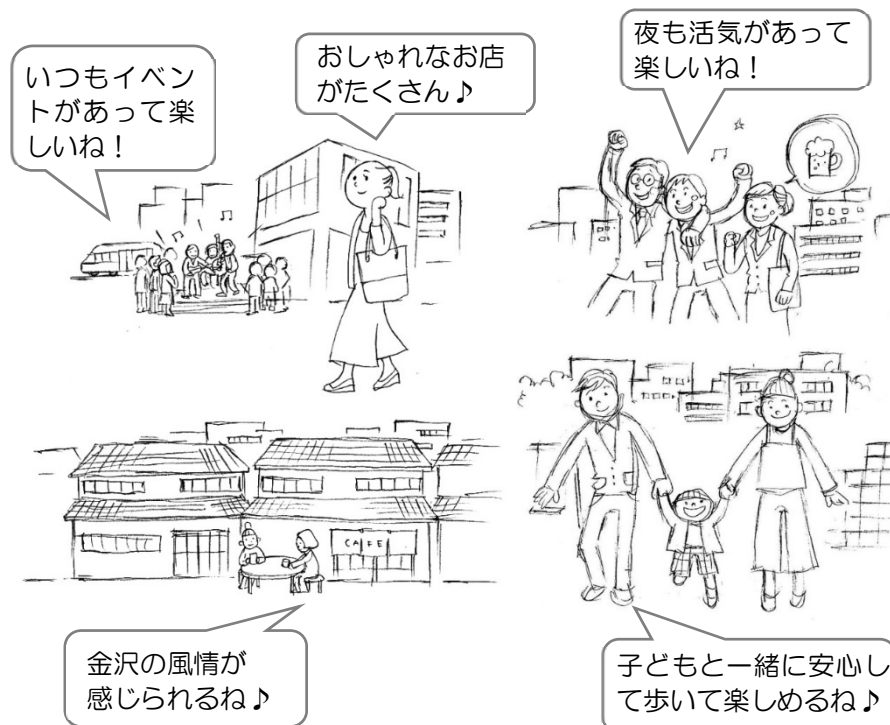
都市機能誘導区域（まちなかなど）

- 店舗や人通りの減少、金沢らしい町家の喪失などにより、まちなかの魅力が低下してしまいます。



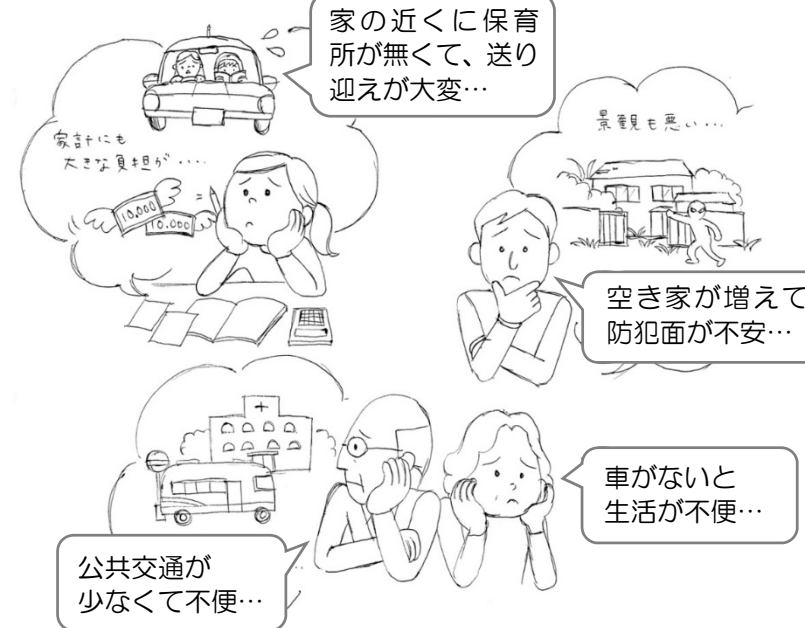
こうしたい！

- 商店やオフィス、文化施設などの様々な都市機能を誘導するとともに、歴史的町並みの保全や賑わいある楽しい環境をつくることで、まちなかの魅力向上や便利な暮らしを支える拠点を形成します。



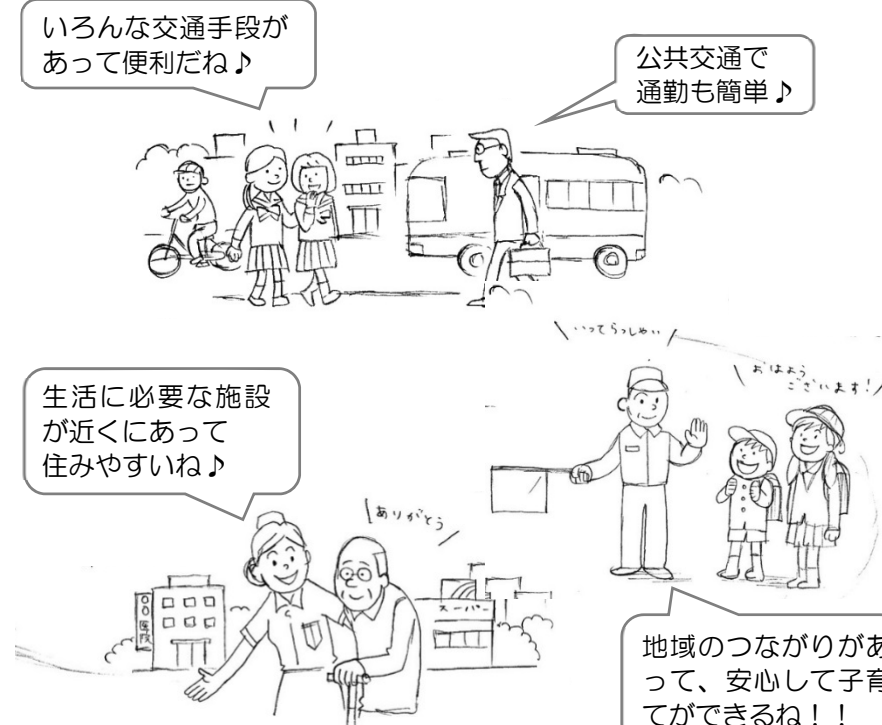
居住誘導区域（公共交通が便利な場所など）

- 生活に必要な店舗の減少や空き家の増加、公共交通の利便性の低下などにより、暮らしが不便になってしまいます。



こうしたい！

- 公共交通の利便性の向上を図るとともに、住宅や日常生活に必要な施設などを誘導することにより、クルマでの移動に頼ることなく、安全・快適に暮らすことができる環境をつくります。



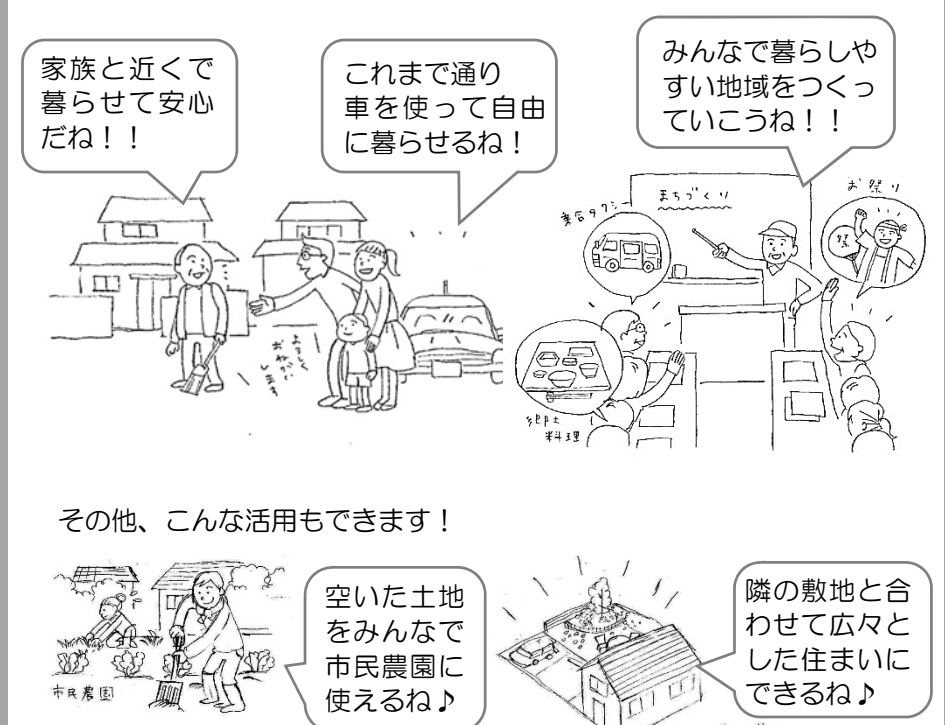
一般居住区域（その他の市街地）

- 生活に必要な店舗の減少や空き家の増加、地域コミュニティの希薄化などにより、安心した暮らしがしにくくなってしまいます。



こうしたい！

- 空き家や空き地を活かした市民農園の開設やゆとりある住まいづくり、家族との同居・近居、住民主体のまちづくりなどを進めることにより、これまで通りの暮らしやすい環境を維持します。



その他、こんな活用もできます！



▶このまま何もしないと...

▶計画の実現によって...